

第10回日本認知症予防学会 学術集会 ～認知症予防学の確率と予防の普及に向けて～

スポンサーードセミナー③

認知症検査時における

患者の聴力低下による過小評価の

リスクと聴覚支援の重要性

現地開催
+
LIVE配信

日時

2021年6月25日(金)

15時50分～16時40分

会場

第6会場〔3階 G301〕



座長

(医) 双樹会
よしき往診クリニック 院長

守上 佳樹 氏



演者

ユニバーサル・サウンドデザイン(株)
代表取締役
聴脳科学総合研究所 所長

中石 真一路 氏

1973年東京都生まれ、熊本県育ち。熊本YMCA専門学校建築科卒業。
建築施工管理に従事し、その後東京デジタルハリウッドに入学。QRコードのチ
ケットレス機能のビジネスモデル特許出願や携帯電話にQRコードリーダーを入
れるなどプランナーとしての実績をもつ。前職のEMIミュージック・ジャパンに
て、約3年に亘る研究の末、世界初となる耳につけない対話支援システム
「comuoon(コミュニン)」を発明。これまで不可能と言われてきた「スピーカーシ
ステムによる聴覚障害者の情報アクセシビリティ」という新しい分野を確立する。
2012年4月にユニバーサル・サウンドデザイン株式会社を設立、聴脳科学総合研
究所所長として高精細音響が人体に与える影響や、聴覚リハビリテーションに関
する研究を行っている。

・本セミナーを WEB 参加 される場合は、学術集会の事前参加登録でご視聴が可能です。
・詳細は学術集会HPより ご確認ください。学会 HP<<http://jsdp2020.umin.jp/>>ご確認くださいませ。

スポンサードセミナー3

認知症検査時における患者の聴力低下による 過小評価のリスクと聴覚支援の重要性

ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社
聴脳科学総合研究所 所長

中石 真一路

2017年度における日本の高齢化率は27.7%と世界でもトップクラスであり、2035年には33.4%と予測され、3人に1人が65歳以上の高齢者となる社会が到来すると推計されている。今後も高齢化が進むとともに、医療を受ける年齢層もさらに高齢者が増加していくものと思われる。それに伴い65歳以上の高齢難聴人口は1500万人と推計されている。高齢期の難聴は、社会的孤立となりやすいだけでなく、医療においては、ヘルスリテラシーの低下や、医療介入へのアドヒアランスの低下を招く可能性も指摘されている。日本老年医学会は個々の価値観を尊重した『最善の医療およびケア』を受ける権利を擁護するための立場表明を行っている。このことから、高齢患者の人生が尊重され意思決定していく過程で、今まで以上に話し合うことが必要になってきていることがわかる。そのためにも、多くの高齢者が自身の治療について話し合っていくために『患者の聴こえの状態』は極めて重要であるといえる。しかし、日本においてはリタイヤ後の国保特定健康診査等実施状況を見ても男性34.5%女性41.2%と報告されており、認知症のリスクファクターと言われている難聴を早期発見し支援する仕組みが完全ではないことが大きな問題であると考えている。当社では、認知症予防や進行抑制の観点からも老年期の難聴の早期発見が重要であると考え、ヒアリングフレイルを提唱し医療機関、行政機関、地域包括ケア、介護施設などに呼びかけている。それに伴い、聴覚簡易チェックアプリ「みんなの聴脳力チェック」を活用した高齢者の聴覚スクリーニングサービスの提供を開始した。このサービスが、認知症検査、外来、入院時に患者の聴きとる脳力を事前に短時間で取得可視化することで、聴覚支援の必要性を確認するためのツールとなっている。聴脳力チェックは、日本耳鼻咽喉科学会のホームページ「難聴はフレイルの原因！」ページ内でも紹介されており、すでに多くの医療機関や施設で利用がスタートしている。さらに、聴覚低下が認められた患者の認知症検査を実施する場合などに用いられているものが、対話支援システム comuoon（以下コミュニケーション）である。コロナ禍も重なりマスク着用が必須となることで「医師の声が患者に伝わりにくい」と感じるケースが増加していることも重なり、高齢難聴者の認知症スクリーニングの過小評価を防止するために、コミュニケーションを利用する医療機関が増えている。高齢難聴者に対して、聴覚機能の状態の把握と支援策を講じることは、コミュニケーションだけでなく、認知症検査時の過小評価防止の観点からも今後ますます重要になってくると考えている。以上のことを踏まえた、医療機関での聴脳力アプリおよびコミュニケーションによる認知症検査時の対策事例や、実際の難聴患者の過小評価が認められた研究等について報告する。

GOOD DESIGN
AWARD 2017



対話支援機器
comuoon(コミュニケーション)とは？

comuoon®
COMMUNICATION SUPPORT SYSTEM

話す側でできる聴こえの支援。

comuoon®(コミュニケーション)は、
全く新しい対話支援システムです。

聴こえに悩んでいる人が自ら工夫するのではなく、
話す側から聴こえの改善に歩み寄りという
逆転の発想から生まれた対話型支援機器、
それが comuoon です。

聴こえに悩む方、その方と関わる健聴者の方、
その間に必要だったサポートがカタチとなりました。

※本製品は、医療器認定を取得した補聴器ではありません。

導入事例

明瞭な言葉を「脳」に届けることが実証された
ユニバーサルスピーカー「コミュニケーション」

高級オーディオの技術を採用し、きこえに大きな影響を及ぼす歪みを極限まで抑えることで高齢者の聞こえを改善する、耳につけない卓上型対話支援システムです。銀行や病院、介護施設、地方自治体など全国4600箇所、約9000台が利用されています。

※実用化されている難聴支援スピーカーの中で唯一難聴者への有用性が日本耳鼻咽喉科学会で発表されています。



在宅医療 やまぐちクリニック様



京都銀行様



福岡市南区役所様

ますますひろがるご利用シーン



佐賀県立ろう学校様



九州大学大学院 医学研究員様



大本山 圓福寺様